

# 松江市 報道提供資料

令和5年7月19日

## 取り扱い注意

解禁日時

8月2日（水）17:00  
（松江市文化財保護審議会終了後）

### 件名

奥才古墳群出土品の松江市指定有形文化財（考古資料）の指定について

### 内容

奥才古墳群出土品について、8月2日（水）開催の松江市文化財保護審議会において、別紙のとおり、松江市指定有形文化財（考古資料）に指定するよう松江市長に答申される予定です。つきましては、下記のとおり、記者発表を予定しますので、ご出席くださいますようお願いいたします。

【日時】 令和5年7月28日（金） 13:30～

【行程】 13:30～15:00 記者公開

【会場】 鹿島歴史民俗資料館（松江市鹿島町名分1355-4）

また、指定決定に合わせ、下記の日程で指定記念展示を開催します。

「2023企画展『海上の覇者 奥才古墳群』展」

【会期】 令和5年8月3日（木）～9月10日（日）

【会場】 鹿島歴史民俗資料館 ※詳細は別紙参照

### 【問い合わせ】

文化スポーツ 部 埋蔵文化財調査 課 担当：三宅

電話：0852-55-5284

# 海上を<sup>つかさど</sup>司った人々の墓「奥才古墳群」

## 【奥才古墳群とは】

奥才古墳群は日本海に近い鹿島町名分の講武平野を北に見下ろす丘陵上に所在し、古墳時代前半にはめずらしい68基もの古墳が群集しています。発掘調査により40基の古墳の実態が明らかになりました。

当古墳群は、ひとつひとつの古墳は決して大きくありませんが、大古墳に匹敵する優秀な副葬品をもつことで注目されます。日本海にほど近い立地から、海上交通を担った集団の墓域と考えられます。特に奥才14号墳では多くの遺物を副葬しているとともに、それまでの出雲地方の古墳の方墳基調に対し、この古墳を契機に円墳が築造され始めるなど、当地方の古墳文化を考える上でも重要な位置を占めます。

## 【奥才古墳群の特徴】

### ① 遠方からもたらされた副葬品

岩手県産の琥珀製勾玉、さらには大陸製の<sup>ほうかくかもんきょう</sup>方格渦文鏡や<sup>そかんとう</sup>素環頭大刀などが出土しています。これらはこの古墳群に埋葬された人々が、日本海の海上交通を取り仕切ることで倭政権などから入手したものと考えられます。また、子供の古墳への埋葬に当たっては、近畿系の土器が多く使用され、倭政権との関係の近さを垣間見せます。



14号墳 素環頭大刀・方格渦文鏡ほか

### ② 島根県内の古墳で唯一の<sup>いしくしろ</sup>石釧

奥才34号墳では、石釧と呼ばれる腕輪形の石製品が1点出土しています。石釧は勾玉、<sup>ねじもんきょう</sup>振文鏡とセットで見つかっており、いずれも首長級の古墳に副葬されるほど貴重なものですが、ここでは子供のお墓と考えられる土器棺の中から見つかりました。



34号墳 石釧・勾玉・振文鏡

### ③ 当地から広まった「奥才型木棺」

棺の底に礫を敷き、中に仕切りを設ける長大な木棺は「奥才型木棺」と呼ばれるようになりました。当古墳群では3基見つかっており、この古墳群で創出された可能性が高い葬法です。日本海沿岸を中心に北部九州、但馬、丹後、畿内中枢部まで分布し、海上交通を掌握した人々のシンボルの墓制と考えられます。

## 【おわりに】

上記のほかにも奥才古墳群では貴重な資料が多く出土しています。これらは埋葬された人々が、日本海を利用して他地域と交流していたことや倭政権と強い関わりがあったことを示す、歴史的にも重要な古墳群の資料です。

奥才古墳群出土資料が市指定文化財となったことを記念して、企画展示を開催します。

## 2023 企画展 ‘海上の覇者 奥才古墳群’ 展

- 【会 場】 鹿島歴史民俗資料館  
【会 期】 令和5年8月3日（木）～9月10日（日）  
【開館時間】 9：00～17：00（入館受付は16：30まで）  
【休 館 日】 月曜日（祝日、休日の場合はその翌日）  
【入 館 料】 一般・大学生 300 円（250 円） 高校生以下無料  
（ ）内は 10 人以上の団体料金

### 【開催要項】

#### 1. 出雲地方最古の円墳

68 基の古墳群中 40 基を調査した。これほどの数の古墳が古墳時代前半期に集中して築造されていた例は知られていない。最高所の 14 号墳は大形の前方後円墳に劣らない優れた副葬品をもつ。非常に丁寧なつくりの石棺には礫が敷き詰められ、この風習は付近に広まる。

#### 2. 奥才型木棺一楯の副葬

日本海沿岸各地に分布する副室構造の礫床をもつ長大な箱式木棺を「奥才型木棺」と呼ぶ。この墓制は奥才古墳群で創出された可能性が高い。兵庫県（但馬）の茶すり山古墳では、奥才型木棺の副室には革製の楯が副葬されており、長い棺の空白部は楯を納める空間と判明した。

その結果、「奥才型木棺」を共有する日本海側に点々と認められる海上交通の主体者は、楯をシンボルとして武装する武人群であると踏み込むことが可能となった。東アジアの緊迫する情勢下、日本海を往来する盾持ち人がいたのである。

#### 3. 貴なる子

古墳群内には、小児を埋葬したと考えられる土器棺などがいくつか発見されている。しかし、数はまれで、成人する前に死亡した子供全てが埋葬されたとはいいがたく、墳丘に葬られることが決まっていた乳幼児が存在したことを物語っている。これらの土器棺では、山陰系の土器ではなく、近畿地方系譜のものが使用され、近畿地方と直接的な関係を取り結んだ人々の墓地といえる。特に 34 号墳は、小児用と考えられる土器棺に大型古墳の副葬品に匹敵する遺物をもつものであった。